

別添

No.	項目名	出典	詳細
1	都道府県コード	H29病床機能報告	
2	都道府県名	H29病床機能報告	
3	コード&構想区域	H29病床機能報告	
4	ID	H29病床機能報告	
5	医療機関施設名	H29病床機能報告	
6	設置主体	都道府県からの報告	医療機関別チェックリスト（第6クール）
7	合計病床数	H29病床機能報告	
8	高度急性期	H29病床機能報告	
9	急性期	H29病床機能報告	
10	回復期	H29病床機能報告	
11	慢性期	H29病床機能報告	
12	休棟中等	H29病床機能報告	
13	公立・公的医療機関等	都道府県からの報告	医療機関別チェックリスト（第6クール）において「公立病院新改革プラン選定対象」または「公的等2025プラン対象」機関としている医療機関を参考に、地域医療支援病院の時点をH29.9に合わせた
14	人口	住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数	平成29年1月1日現在 (人口区分 1:100万以上 2:50-100万 3:20-50万 4:10-20万 5:10万未満)
15	基幹型臨床研修病院	平成30年度研修を行う病院	平成30年4月1日時点
16	特定機能病院	特定機能病院一覧	平成30年4月1日時点
17	地域医療支援病院	地域医療支援病院一覧	平成29年9月末日時点
18	災害拠点フラグ	災害拠点病院一覧	平成30年4月1日時点
19	へき地拠点フラグ	へき地医療拠点病院一覧	平成30年1月1日時点
20	総合周産期医療センターフラグ	総合周産期母子医療センター一覧	平成30年4月1日時点
21	地域周産期医療センターフラグ	地域周産期母子医療センター一覧	平成30年4月1日時点
22	公立病院新改革プラン策定対象	「地域医療構想における議論の進捗確認について」において報告いただいた医療機関チェックリスト（平成30年9月報告）	平成29年9月末日時点
23	公的等2025プラン対象	「地域医療構想における議論の進捗確認について」において報告いただいた医療機関チェックリスト（平成30年9月報告）	平成29年9月末日時点
24	民間の地域医療支援病院		設置主体が民間（19公益法人～25:その他の法人）のうちNo17の地域医療支援病院に該当する医療機関
25	A 診療実績が特に少ない	がん	「分析項目ごとのA評価」の【がん】領域すべてで●とされた場合に●とする。
26		心筋梗塞等の心血管疾患	「分析項目ごとのA評価」の【心筋梗塞等の心血管疾患】領域すべてで●とされた場合に●とする。
27		脳卒中	「分析項目ごとのA評価」の【脳卒中】領域すべてで●とされた場合に●とする。
28		救急医療	「分析項目ごとのA評価」の【救急医療】領域すべてで●とされた場合に●とする。
29		小児医療	「分析項目ごとのA評価」の【小児医療】領域で●とされた場合に●とする。
30		周産期医療	「総合周産期母子医療センター」、「地域周産期母子医療センター」のどちらにも該当せず、参考資料1-4において「分析項目ごとのA評価」の【周産期医療】領域すべてで●とされた場合に●とする。
31		災害医療	「災害拠点病院」以外の場合に●とする。
32		へき地医療	「へき地拠点病院」以外の場合に●とする。
33		研修・派遣機能	「基幹型臨床研修病院」以外の場合に●とする。
34		該当数	No25からNo33の●の合計。
35	B 類似かつ近接	がん	「分析項目ごとのB評価」の【がん】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
36		心筋梗塞等の心血管疾患	「分析項目ごとのB評価」の【心筋梗塞等の心血管疾患】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
37		脳卒中	「分析項目ごとのB評価」の【脳卒中】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
38		救急医療	「分析項目ごとのB評価」の【救急医療】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
39		小児医療	「分析項目ごとのB評価」の【小児医療】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
40		周産期医療	「総合周産期母子医療センター」、「地域周産期母子医療センター」のどちらにも該当せず、「分析項目ごとのB評価」の【周産期医療】領域すべてで●とされた場合（分析項目ごとのA評価が●となり省略された場合も含む）に●とする。
41		該当数	No35からNo40の●の合計。

41	【がん】 肺・呼吸器	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計</p> <p>K5141 肺悪性腫瘍手術（部分切除）</p> <p>K51410 肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除、横隔膜心膜合併切除を伴う）</p> <p>K5142 肺悪性腫瘍手術（区域切除）</p> <p>K514-21 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）</p> <p>K514-22 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）</p> <p>K514-23 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）</p> <p>K5143 肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）</p> <p>K5143-23 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）</p> <p>K5144 肺悪性腫瘍手術（肺全摘）</p> <p>K5145 肺悪性腫瘍手術（膈接臓器合併切除を伴う肺切除）</p> <p>K5146 肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）</p> <p>K5148 肺悪性腫瘍手術（気管分枝部再建を伴う肺切除）</p> <p>K5149 肺悪性腫瘍手術（胸膜肺全摘）</p>
42	【がん】 乳腺	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計</p> <p>K4761 乳癌悪性腫瘍手術（単純乳房切除術（乳房全摘術））</p> <p>K4762 乳癌悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））</p> <p>K4763 乳癌悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））</p> <p>K4764 乳癌悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴う））</p> <p>K4765 乳癌悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）</p> <p>K4766 乳癌悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施する）</p> <p>K4767 乳癌悪性腫瘍手術（拡大乳房切除術（郭清を併施する））</p> <p>K4768 乳癌悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））</p> <p>K4769 乳癌悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩部郭清を伴う））</p>
43	【がん】 消化器（消化管／肝胆膵）	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計</p> <p>K6751 胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢に限局するもの（リンパ節郭清を含む））</p> <p>K6752 胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（亜区域切除以上））</p> <p>K6753 胆嚢悪性腫瘍手術（肝切除（葉以上）を伴う）</p> <p>K6754 胆嚢悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除を伴う）</p> <p>K6755 胆嚢悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）</p> <p>K6771 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴う）</p> <p>K6772 胆管悪性腫瘍手術（その他）</p> <p>K677-21 肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建あり）</p> <p>K677-22 肝門部胆管悪性腫瘍手術（血行再建なし）</p> <p>K6951 肝切除術（部分切除）</p> <p>K6952 肝切除術（亜区域切除）</p> <p>K695-2 腹腔鏡下肝切除術（部分切除）</p> <p>K695-21 腹腔鏡下肝切除術（部分切除）</p> <p>K695-22 腹腔鏡下肝切除術（外側区域切除）</p> <p>K695-23 腹腔鏡下肝切除術（亜区域切除）</p> <p>K695-24 腹腔鏡下肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く））</p> <p>K695-25 腹腔鏡下肝切除術（2区域切除）</p> <p>K6953 肝切除術（外側区域切除）</p> <p>K6954 肝切除術（1区域切除（外側区域切除を除く））</p> <p>K6955 肝切除術（2区域切除）</p> <p>K6956 肝切除術（3区域切除以上）</p> <p>K6957 肝切除術（2区域切除以上で血行再建）</p> <p>K697-21 肝悪性腫瘍マイクロ波凝固法（腹腔鏡）</p> <p>K697-22 肝悪性腫瘍マイクロ波凝固法（その他）</p> <p>K697-31-1 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cm以内）（腹腔鏡）</p> <p>K697-31-2 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cm以内）（その他）</p> <p>K697-32-1 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cmを超える）（腹腔鏡）</p> <p>K697-32-2 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cmを超える）（その他）</p> <p>K697-33 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cmを超える）（その他）</p> <p>K697-34 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法（2cm以内）（その他）</p> <p>K7021-1 膵体尾部腫瘍切除術（膵尾部切除術）（脾同時切除）</p> <p>K7021-2 膵体尾部腫瘍切除術（膵尾部切除術）（脾温存）</p> <p>K7022 膵体尾部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K702-2 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（脾同時切除）</p> <p>K702-21 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（脾同時切除）</p> <p>K702-22 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（脾温存）</p> <p>K7023 膵体尾部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K7024 膵体尾部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K7031 膵頭部腫瘍切除術（膵頭十二指腸切除術）</p> <p>K7032 膵頭部腫瘍切除術（リンパ節・神経叢郭清等を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K7033 膵頭部腫瘍切除術（十二指腸温存膵頭切除術）</p> <p>K703-2 腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術</p> <p>K7033 膵頭部腫瘍切除術（周辺臓器の合併切除を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K7034 膵頭部腫瘍切除術（血行再建を伴う腫瘍切除術）</p> <p>K704 膵全摘術</p> <p>K6552 胃切除術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K655-2 腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K655-22 腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K655-42 噴門側胃切除術（悪性腫瘍切除術）</p> <p>K655-52 腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍切除術）</p> <p>K6572 胃全摘術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K657-22 腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K7162 小腸切除術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K7162 腸閉塞症手術（小腸切除術）（悪性腫瘍手術）</p> <p>K716-22 腹腔鏡下小腸切除術（悪性腫瘍手術）</p> <p>K7193 結腸切除術（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）</p> <p>K7193 腸閉塞症手術（結腸切除術）（全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術）</p> <p>K719-3 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術</p> <p>K7401 直腸切除・切断術（切除術）</p>

実績の実数

			<p>K7402 直腸切除・切断術（低位前方切除術） K740-2 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術） K740-2 腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術） K740-21 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術） K740-22 腹腔鏡下直腸切除・切断術（低位前方切除術） K740-23 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術） K7403 直腸切除・切断術（超低位前方切除術）（経肛門の結腸囊肛門吻合） K7404 直腸切除・切断術（切断術） K5271 食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（頭部食道） K5272 食道悪性腫瘍手術（単に切除のみ）（胸部食道） K5291 食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（頭部、胸部、腹部の操作） K5292 食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（胸部、腹部の操作） K529-21 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（頭部、胸部、腹部の操作） K529-22 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（胸部、腹部の操作） K5293 食道悪性腫瘍手術（消化管再建手術併施）（腹部の操作）</p>
44	【がん】泌尿器／生殖器	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計 K773 腎（尿管）悪性腫瘍手術 K773-2 腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術 K773-3 腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術 K773-5 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる） K8031 膀胱悪性腫瘍手術（切除） K8032 膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿路変更を行わない）） K803-2 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 K8033 膀胱悪性腫瘍手術（全摘（尿管S状結腸吻合利用で尿路変更を行う）） K803-3 腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術 K8034 膀胱悪性腫瘍手術（全摘（回腸又は結腸導管利用で尿路変更を行う）） K8035 膀胱悪性腫瘍手術（全摘（代用膀胱利用で尿路変更を行う）） K8036-I 膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用） K8036-O 膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他） K843 前立腺悪性腫瘍手術 K843-2 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 K843-3 腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術 K843-4 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる） K879 子宮悪性腫瘍手術 K879-2 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん） K889 子宮付属器悪性腫瘍手術（両側）</p>
45	【がん】放射線療法	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況④放射線治療のうち、「放射線治療管理料」、「放射性同位元素内用療法管理料」のレセプト件数
46	【心筋梗塞等の心血管疾患】急性心筋梗塞に対する心臓カテーテル手術	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計 K5461 経皮的冠動脈形成術（急性心筋梗塞） K5462 経皮的冠動脈形成術（不安定狭心症） K5491 経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞） K5492 経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症） K550 冠動脈内血栓溶解療法 K550-2 経皮的冠動脈血栓吸引術</p>
47	【心筋梗塞等の心血管疾患】外科手術が必要な心疾患	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計 3. 幅広い手術の実施状況 ③人工心肺を用いた手術 算定回数 及び K5521 冠動脈、大動脈バイパス移植術（1吻合） K5522 冠動脈、大動脈バイパス移植術（2吻合以上） K552-21 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（1吻合） K552-22 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺不使用）（2吻合以上）</p>
48	【脳卒中】超急性期脳卒中加算	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	報告様式2（病棟票） 4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況 ⑨超急性期脳卒中加算 レセプト件数
49	【脳卒中】脳動脈瘤クリッピング術等	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（病棟票）で報告があった 4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況⑩脳血管内手術 「脳血管内手術1箇所」、「脳血管内手術2箇所以上」、「脳血管内ステントを用いるもの」算定回数 及び 報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計 K1761 脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（1箇所） K1762 脳動脈瘤流入血管クリッピング（開頭）（2箇所以上） K1771 脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所） K1772 脳動脈瘤頸部クリッピング（2箇所以上）</p>
50	【脳卒中】開頭血腫除去術等	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（手術票）で報告があった以下の手術の算定回数の合計 K145 穿頭脳室ドレーナージ術 K1492 減圧開頭術（その他） K1643 頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）</p>
51	【脳卒中】血栓除去術等の脳血管内手術	H29病床機能報告（平成29年6月診療分）	<p>報告様式2（病棟票）で報告があった 4. がん・脳卒中・心筋梗塞等への治療状況 ⑩脳血管内手術 「経皮的脳血管形成術」、「経皮的選択的脳血栓・血栓溶解術」、「経皮的脳血栓回収術」、「経皮的脳血管ステント留置術」の算定回数の合計</p>
52	【救急医療】救急搬送等の医療	H29病床機能報告（平成29年7月～平成30年6月）	報告様式1（病院用・施設票）で報告があった 8. 救急医療の実施状況 ③救急車の受入件数

53	【救急医療】 大腿骨骨折等	H29病床機能報告 (平成29年6月診療分)	報告様式2 (手術票) で報告があった以下の手術の算定回数の合計 K0461 骨折観血的手術 (大腿) K0811 人工骨頭挿入術 (股)
54	【小児医療】 小児入院医療管理料・新生児集中治療室管理料等	H29病床機能報告 (平成29年6月診療分)	報告様式2 (病棟票) で報告があった 1. 算定する入院基本料・特定入院料等の状況 特定入院料 「33. 新生児特定集中治療室管理料1 (77)」、「34. 新生児特定集中治療室管理料2 (78)」、「36. 総合周産期特定集中治療室管理料 (新生児) (80)」、「39. 小児入院医療管理料1 (85)」、「40. 小児入院医療管理料2 (86)」、「41. 小児入院医療管理料3 (87)」、「42. 小児入院医療管理料4 (88)」の算定回数の合計
55	【周産期医療】 分娩件数	H29病床機能報告 (平成29年6月診療分)	報告様式1 (病院用・病棟票) で報告があった 9. 分娩件数
56	【周産期医療】 ハイリスク分娩管理加算	H29病床機能報告 (平成29年6月診療分)	報告様式2 (病棟票) で報告があった 5. 重症患者への対応状況 ①ハイリスク分娩管理加算 算定回数

診療実績の分析について

1 分析対象

以下の条件に該当する医療機関を分析対象とした。

- (1) 平成 29 年度病床機能報告において、様式 1 及び様式 2 の報告がされている。
- (2) 平成 29 年度病床機能報告において、「平成 29 年 7 月 1 日時点の機能」で高度急性期又は急性期と報告した病棟がある。
- (3) 病院である（有床診療所は対象外）。

2 分析に使用したデータ

別添のとおり

3 分析方法

- (1) 公立・公的医療機関等における「A:診療実績が特に少ない」の分析方法

ア 全国の構想区域を、人口規模によって 5 個のグループ（①人口区分 1：人口 100 万人以上の構想区域、②人口区分 2：人口 50 万人以上 100 万人未満の構想区域、③人口区分 3：人口 20 万人以上 50 万人未満の構想区域、④人口区分 4：人口 10 万人以上 20 万人未満の構想区域、⑤人口区分 5：人口 10 万人未満の構想区域）に分類した上で、各グループに所属する公立・公的医療機関等の診療実績を比較し、各グループの中で診療実績が下位 33.3 パーセンタイル値未満である公立・公的医療機関等を「診療実績が特に少ない」とする（分析項目ごと）。

- ① 公立・公的医療機関等のうち診療実績が 0 でない医療機関を診療実績が少ない順に並べる。なお、診療実績が同数の場合も暫定的に順位を付ける。
- ② 診療実績が少ない医療機関から数えて 33.3%（切り上げ）目の医療機関を特定する。なお、医療機関数の 33.3%が整数の場合は、その値に 1 を足した順位の医療機関を特定する。
- ③ 前②で特定した医療機関の診療実績を基準値とする。
- ④ 基準値未満の診療実績の医療機関を「診療実績が特に少ない」とする。
※ 基準値と同実績の医療機関が複数存在する場合、それらはすべて「診療実績が特に少ない」としないため、「診療実績が特に少ない」に該当する医療機関が全体の 3 分の 1 になるとは限らない。

イ がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期の 6 領域について、その領域に属する全ての分析項目で「診療実績が特に少ない」に該当する場合、その領域を「診療実績が特に少ない」とする。

ウ 災害、へき地、研修・派遣機能については、それぞれ災害拠点病院、へき地医療拠点病院、基幹型初期臨床研修病院に該当しない場合に、「診療実績が特に少ない」とする。また、総合周産期母子医療センター又は地域周産期母子医療センターに該当する場合は、診療実績に関わらず周産期領域は「診療実

績が特に少ない」とはしない。

【基準（33.3パーセンタイル）値の算出方法】

（医療機関数※）×0.333 + 1=R（小数点切り下げ）のとき、
医療機関（診療実績0件の医療機関を除く）の診療実績を昇順に数えてR番目の実績値

※各分析項目及び人口規模グループにおける、公立・公的医療機関等であり、かつ、診療実績0件でない医療機関の数

例)

							「診療実績が特に少ない」						
医療機関	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
順位	1	2	3	3	5	6	7	8	9	10	—	—	—
実績	15	13	10	10	9	7	6	4	2	1	0	0	0

$$R = 10 \times 0.333 + 1 = 4.33 \text{ (4.33 の小数点切り下げ)}$$

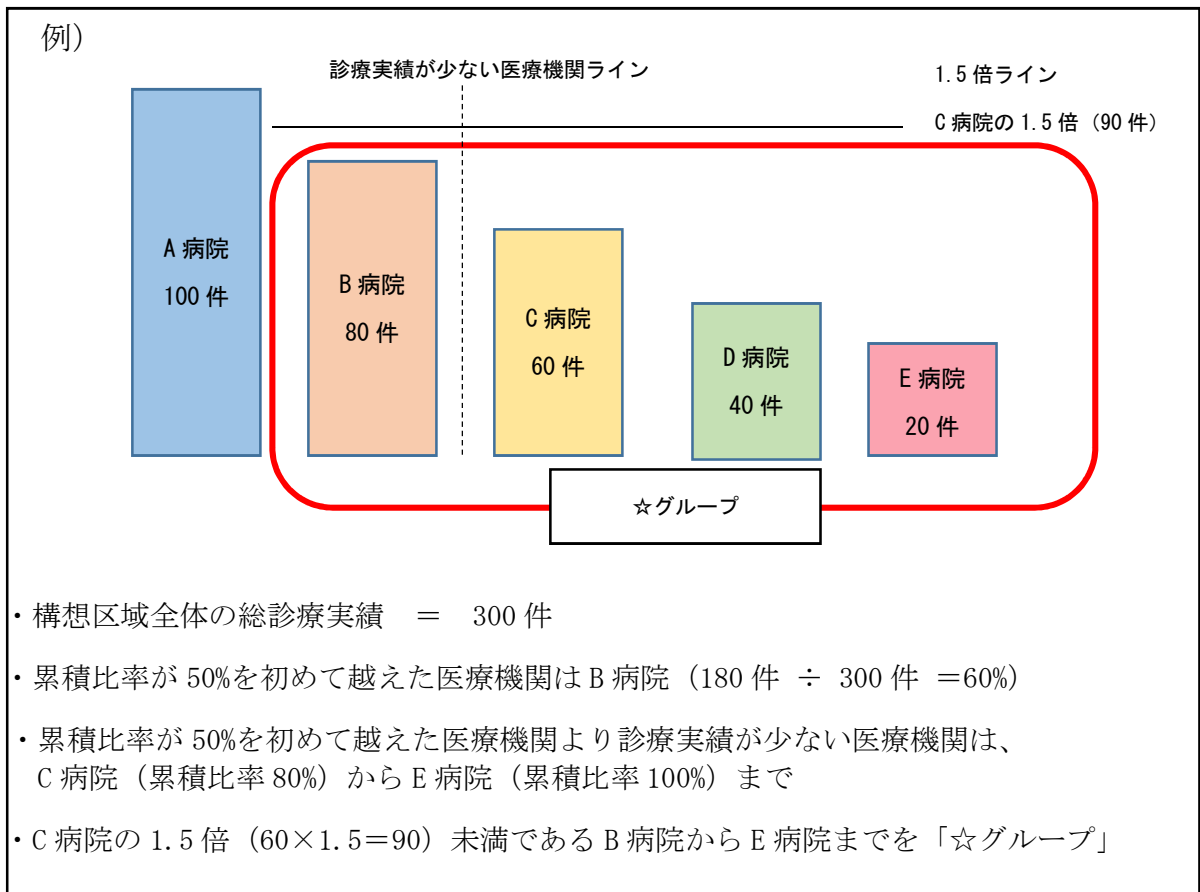
実績値を昇順に並べたときのR番目（4番目）は医療機関Gのため、
基準値 = 6

各分析項目及び人口規模グループにおける公立・公的医療機関等の基準（33.3パーセンタイル）値

領域	分析項目	人口区分ごとの33.3パーセンタイル値				
		区分1	区分2	区分3	区分4	区分5
がん	肺・呼吸器	4	4	3	2	1
	乳腺	4	3	2	1	1
	消化器（消化管／肝胆膵）	10	7	5	3	2
	泌尿器／生殖器	9	8	5	4	2
	放射線療法	7	6	6	4	3
心筋梗塞等の 心血管疾患	心筋梗塞	3	3	3	2	2
	外科手術が必要な心疾患	5	5	4	2	2
脳卒中	超急性期脳卒中加算	1	1	1	1	1
	クリッピング術等	2	2	2	1	1
	開頭血腫除去術等	1	1	1	1	1
	脳血管内治療	1	1	1	1	2
救急医療	救急搬送等の医療	1,965	1,037	648	419	392
	大腿骨骨折等	4	4	4	4	4
小児医療	小児入院管理料等	421	405	329	210	122
周産期 医療	分娩件数	31	24	22	16	9
	ハイリスク分娩管理加算	16	18	20	10	8

(2) 公立・公的医療機関等の「B：類似かつ近接」の分析方法

- ア 各構想区域内に所在する医療機関(公・民間問わず)の診療実績を比較し、
- (ア) 分析項目ごとに、構想区域内の診療実績0件でない医療機関の診療実績を降順に並べ、診療実績の累積比率(構想区域の総診療実績に占める、最も診療実績が多い医療機関から当該医療機関までの診療実績の合計の比率)が、50%を初めて越えた医療機関より診療実績が少ない医療機関を決定する。
- (イ) (ア)の条件を満たす医療機関の中で最も診療実績が多い医療機関の診療実績の、1.5倍未満の診療実績をもつ医療機関を「☆グループ」とする。
(50%を初めて越えた医療機関の次の医療機関の実績が5件の場合、7.5件未満となるため、事実上8件未満が☆グループとなる。)
- (ウ) 「☆グループ」の公立・公的医療機関等を「類似の診療実績をもつ」とする。



イ 各分析項目について、自動車での移動時間が 20 分以内 (同一構想区域内に限る) の距離に、診療実績を有する医療機関がある場合を、「近接する医療機関がある」とする。

ただし、A 分析の結果「診療実績が特に少ない」に該当しない医療機関に、「診療実績が特に少ない」公立・公的医療機関等が近接している場合は「近接する」としない。

なお、近接している医療機関が民間医療機関の場合については、診療実績

が1件でもあれば「近接する」とする。

距離の算出にはNITAS（総合交通分析システム）を用いており、最短のルート（所要時間最小）による移動時間を使用している。

		対象医療機関から20分圏内にある医療機関			
		公立・公的等医療機関で「分析項目ごとのA評価」が●ではない	公立・公的等医療機関で「分析項目ごとのA評価」が●	民間医療機関で診療実績が1件以上	公立・公的等医療機関、民間医療機関で診療実績が0件
自医療機関	「分析項目ごとのA評価」が●ではない	近接	近接とならない	近接	近接とならない
	「分析項目ごとのA評価」が●	近接	近接	近接	近接とならない
	診療実績が0件	近接医療機関の有無にかかわらず分析項目ごとのB評価に「●」			

※分析項目ごとに判断

ウ 前ア及び前イの両方の条件を満たすものについて、「類似かつ近接」に該当することとする。ただし、周産期の領域については、総合周産期母子医療センター又は地域周産期母子医療センターであれば上記に関わらず「類似かつ近接」としない。

(3) 民間医療機関の「公立・公的医療機関等と近接し、一定の実績を有する」の分析方法

ア 各構想区域内に所在する医療機関(公・民間問わず)の診療実績を前(2)のアの方法で比較し、「☆グループ」とならなかった民間医療機関を特定する。

イ 各分析項目について、自動車での移動時間が20分以内の距離に、☆グループの公立・公的医療機関等がある場合を、「近接する公立・公的医療機関等がある」とする。ただし、当該公立・公的医療機関等の診療実績が0の場合は、「近接する公立・公的医療機関等がある」とはしない。

また、「分娩件数」、「ハイリスク分娩管理加算」の項目については、総合周産期医療センター、地域周産期医療センターに該当する公立・公的医療機関等が自動車での移動時間が20分以内の距離にあったとしても「近接する公立・公的医療機関等がある」とはしない。

ウ 前ア及び前イの両方の条件を満たす民間医療機関を「公立・公的医療機関等と近接し、一定の実績を有する」とする。

令和〇年〇月〇日

〇〇保健医療圏地域医療構想調整会議議長 様

〇〇病院 院長 印

具体的対応方針の再検討結果について（報告）

標記について、以下のとおり報告します。

- ① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割
 - ・ 2025年の医療機関の役割

担う役割の方針												
役割	がん	脳卒中	心血管疾患	糖尿病	精神疾患	救急医療	災害医療	離島・へき地医療	周産期医療	小児・小児救急医療	在宅医療	その他
現行のプラン												
変更後												

（変更する場合は、その理由）

- ・ 診療科の見直しについて
検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

分析時点 (H29.7.1)	→	現在(R1.7.1)	→	2025年 (現行のプラン)	→	2025年 (変更後)
		新設				
		廃止				
		変更・統合				

- ② 分析の対象とした領域ごとの医療機能の方向性（他の医療機関との機能統合や連携，機能縮小，機能廃止等）

分析した領域	分析時点 (H29)	現在(R1.7.1)	2025年	その他を選択した場合の理由
がん				
心筋梗塞等の心血管疾患				
脳卒中				
救急医療				
小児医療				
周産期医療				
災害医療				
へき地医療				
研修派遣機能				

- ③ ①②を踏まえた機能別の病床数の変動

分析時点 (H29.7.1)	→	現在(R1.7.1)	→	2025年 (現行のプラン)	→	2025年 (変更後)
高度急性期		高度急性期		高度急性期		高度急性期
急性期		急性期		急性期		急性期
回復期		回復期		回復期		回復期
慢性期		慢性期		慢性期		慢性期
休棟		休棟		休棟		休棟
介護保険施設等		介護保険施設等		介護保険施設等		介護保険施設等

（単位：床）

- ④ 現行の具体的対応方針から変更がない場合は、その理由